京都大学大学院人間・環境学研究科
共生人間学専攻外国語教育論講座

# 西山教行研究室へようこそ

言語政策，言語教育学，フランス語教育学への誘い

2017

# 教員紹介

- 教授　西山教行
- 研究分野：言語政策、言語教育学，フランス語教育学、異文化間教育，フランス社会文化論、植民地教育など
- 主な担当科目：フランス語（共通教育，1回生，2回生），言語政策論（総合人間学部），外国語教育政策論（大学院）

# 研究テーマ

3

- 本研究室では、歴史、社会、文化など人間を取り巻くさまざまな環境のなかで外国語教育の様態を検討し、外国語教育は何をめざすのか、社会でどのような役割を担うのか、どのような制度のもとで実践されるのかなどを考察します。
- このため、社会のなかで言語にどのような地位と役割を与えるのかを批判的に検討する言語政策の方法論を参照し、学校という社会における言語のあり方に迫ります。

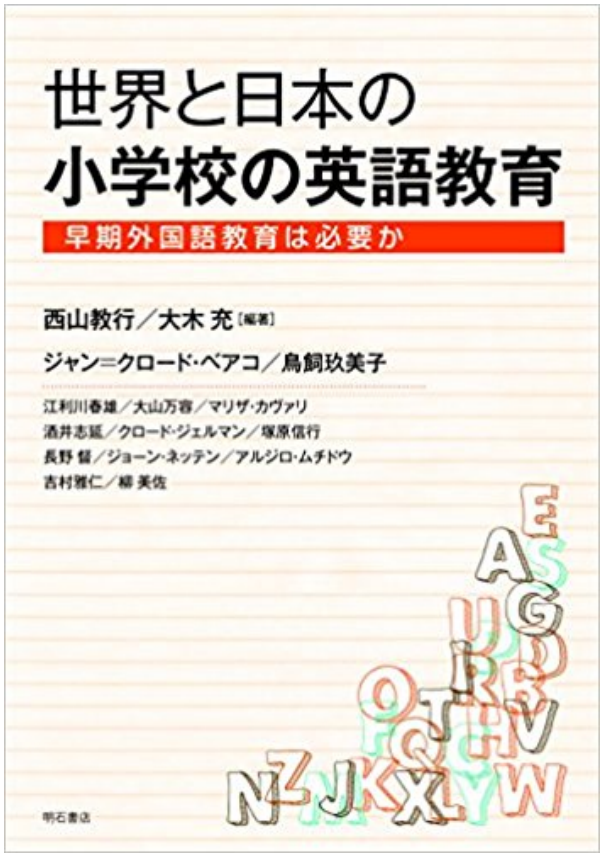
# 最近の研究成果より

4

- 『世界と日本の小学校の英語教育 –早期外国語教育は必要か』　編著（西山教行，大木充）（2015）
- 『異文化間教育とは何か —グローバル人材育成のために 』編著（西山教行 , 細川英雄, 大木充　編）（2015）
- 『「グローバル人材」再考 - 言語と教育から日本の国際化を考える』（2014）
- 『マルチ言語宣言-なぜ英語以外の外国語を学ぶのか』（2011）
- 『複言語・複文化主義とは何か - ヨーロッパの理念・状況から日本における受容・文脈化へ』（2011）

# 最近の研究成果より

異文化間教育とは何か
グローバル人材育成のために
西山教行・細川英雄・大木充 編
「共に生きる」社会の構築に必要な異文化間(インターカルチャー)能力とは
日本、フランス、イギリス、カナダの研究者たちによる熱き異文化間教育論
くろしお出版


世界と日本の小学校の英語教育
早期外国語教育は必要か
西山教行／大木 充［編著］
ジャン=クロード・ベアコ／鳥飼玖美子
江利川春雄／大山万容／マリザ・カヴァリ
酒井志延／クロード・ジェルマン／塚原信行
長野 督／ジョーン・ネッテン／アルジロ・ムチドウ
吉村雅仁／柳 美佐
明石書店

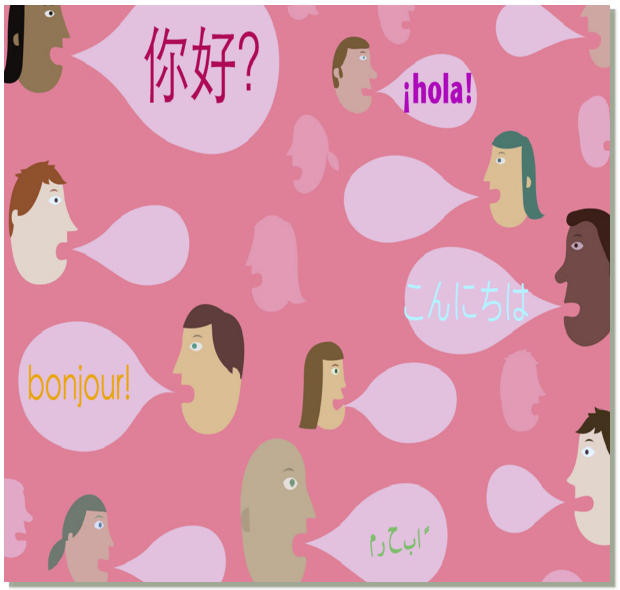
複言語・複文化主義とは何か
ヨーロッパの理念・状況から日本における受容・文脈化へ
細川英雄　西山教行 編
くろしお出版

# 研究室メンバー紹介

- PD：大山万容，許　之威，程 遠巍
- 博士課程：赤桐　淳，金ボラ，濱嶋聡，下　絵津子，倉舘 健一，西島順子
- 修士課程：劉　天嬌，関Delphine 笑子，朴　燕，馬 云霏，藤井　碧，引田美沙
- 学部生：俣野のぞみ
- 研究生：張　心悦，金　ダソム

# 言語への目覚め活動

7




- 日本では「外国語ができる＝英語ができる」と思われがちですが、世界にはいくつもの言語を同時に使ったり、学んでいる人がたくさんいます。
- 「１つの外国語だけ学ぶ」ではなく、さまざまな外国語を同時に使って、ことばを学ぶ教育法について研究しています。
- 大山万容（おおやま　まよ）PD

# 言語には文化が反映されている

- 言語は単にコミュニケーションの道具だけではありません。
- 言語を習得すれば，それを使う人々の考え方やその人々が住んでいる国について知ることができます。さらに自分の国と異なる文化を理解し、「寛容」の態度で接することができます。
- このようなヨーロッパで生まれた教育思想は，東アジアの国々にも活用できると考えています。
- ヨーロッパ発の言語教育思想である『ヨーロッパ言語共通参照枠』の中国と台湾における受容の実態について研究しています。
- 程遠巍(CHENG, Yuanwei),OD

(中国東北地方のハルビン=哈爾濱の出身です。左の写真は市内にあるロシア正教の聖ソフィア教会です。)

# 死滅アボリジニ言語復興プロジェクトとその学習意義

- 濱嶋聡（はましま　さとし）

- 後期博士課程３年

9

- 研究テーマ：ヨーロッパ（イギリス）人がオーストラリア大陸への入植を開始する以前までは、ドイツ語とフランス語間の相違と同じ程度の違いのアボリジニ諸語が約２５０語存在していました（Macquarie大学言語研究所による）が、現在では５０以下に減少し、毎年１言語が消滅していく状況にあります。現在、オーストラリアではそのような死滅言語を例えば、宣教師が記録した資料をもとに復活させて先住民のアィデンティ維持に活かすプロジェクトが各地で行われていますが、その学習の意義と、政策と現状のギャップを埋めるためにどのような試みがなされているのかについて現地調査をもとに研究を続けています。

# 多言語環境に置かれる児童

10

- グローバル化の深化とともに、留学や就労などのため異なる言語文化を持った人々が移住するようになりました。なかでも韓国からの訪日者は多く、また韓国は英語に対する教育熱の高い国として知られるなかで、英語習得のため英語圏へ留学する韓国人も珍しくありません。
- そんな中、来日する韓国人のうち子どもをインターナショナルスクールへ通学させ、外国語習得を強化する家庭も少なくありません。彼らは学校では英語、家庭では韓国語、それ以外の場所では日本語に接し、日常生活の中で多言語環境を体験することになります。
- 以上のような、言語形成期を多言語環境に置かれる日本滞在の韓国人児童に関する研究をしています。

博士課程：金ボラ

# Q：あなたはなぜ日本語で話しますか？

11

この質問に「日本人だから当たり前」と考える人が多いと思います。

しかし、この「○○語」と「○○人」との関係は、東アジアでわずか100年ほどの歴史しかありません。

「当たり前」ではなく、19世紀に、ある必要から人為的に作られた感覚なのです。

今後、国際化と少子化が進めば、言葉と社会の関係は、大きく変化すると考えられます。

私は、未来の東アジアの言語社会を考えるために、西山研で過去（19世紀）の中国の言語教育政策を研究しています。

博士課程1年　赤桐敦（あかぎり　あつし）

# 近代・現代日本の学校制度における英語以外の外国語教育

12

- 博士後期課程２年
- 下　絵津子（しも　えつこ）
- 英語偏重と批判される現在の日本の外国語教育。英語以外の外国語教育の実情はいかなるものか。

特に次の視点から研究します。

- 戦後発表された学習指導要領（外国語）の試案作成や改訂に関係者はどのようにかかわってきたのか。
- 80年代以降、外国語教育政策上、英語化はますます進んだと考えられる。戦後からそのころまでに、教育・政治・経済・メディアにおいて、関係者は英語以外の外国語の教育に関して、どのような発言・提案をしてきたか。
- 現在の学校制度が確立された明治期以降、学校教育制度・政策に関する議論の過程で、外国語教育はどのような位置づけ・役割を付与されてきたか。

# イタリアにおける民主的言語教育の歴史的展開と現在

13

- 近年、排外的傾向にある欧州ですが、言語政策では多様性を認める寛容な社会を目指し、複言語・複文化主義の具現化に向けての取り組みが進められています。

- しかし、このように言語を通してよりよい社会を目指すという動きは今に始まったことではありません。その一つが1970年代にイタリアで起こった「民主的言語教育」です。それは、当時、多言語社会にあったイタリアにおいて、言語の差による生徒の不平等をなくすための教育改革でした。

- この民主的言語教育が社会や人々に与えた影響を明らかにし、複言語・複文化主義と比較・考察することで、現代の多言語・多文化社会への示唆を得たいと考えています。

博士課程：西島順子（よりこ）

# 語学の戦後史とラジオ第二放送――
# 英語以外の語学講座番組の変遷と語学習得の大衆化過程

14

- 日本では語学をラジオで学ぶ伝統が受け継がれてきました。ラジオ語学講座は，学校教育とともに長らく外国語と異文化の学習文化の中核を成してきた，世界的にも貴重な教育文化遺産ではないでしょうか。

- 公共性の高さ、ラジオのアクセシビリティ、聴取可能範囲の広さ、放送頻度の高さ、地域言語講座の貴重性、またテレビとは違う学習内容の濃さなどを特徴としており、学校教育とは異なる重要な語学学習メディアとして認知され、現在に至っています。

- ラジオ語学講座は先の大戦を前後して開始されました。英語以外の語学教育の戦後史についての研究が手つかずの状況のなか，放送資料からこれを辿ることを構想しています。

- 講座開始の社会的政治的背景、またいわゆる「学校放送」とは別の発展を遂げてきたこれらの番組が環境として提供する学習のオートノミーとその社会的変容の過程などを浮き彫りにしたいと思います。

博士課程 ： 倉 舘 健 一

15

M2：劉　天嬌（リュウ　テンキョウ）

研究テーマ：

## 中国語国際教育における文化発信機能研究

## －孔子学院の中国イメージ作り－

WTO加盟後、中国は様々な面で世界にプレゼンスを高めようとしている。文化面においては、中国政府の文化体制改革・文化産業振興等の取組、文化走出去、中華文化の復興など、国家戦略として推進されている文化政策の様々な動きと背景を追いながら、対外文化発信の重要な担い手である孔子学院がどのような中国像を世界に伝えようとしているのかを明らかにしたいである。

# 中国における留学教育の現状及びその発展について

16

- グローバル化が進むにつれ、高等教育も国際化を迎えつつあり、高等教育の一環である留学教育も優秀な人材獲得時代を迎えています。
- 中国の各大学も留学生政策の下で、「留学生質的成長と管理」を重要視する傾向が見られています。
- ここで、中国の留学教育における諸問題を日本、韓国の留学教育との比較を通じ、問題点、共通点・相違点などを明らかにしていきたいです。

修士課程2年　朴燕（ぼくえん）

# フランスのCRAPELの自律型外国語学習、その位置付けと変遷

17

- 近年、教育において、学習者の自律は大きく叫ばれていることの１つです。外国語教育においても、それは例外ではありません。
- 学習者の自律化を独自の視点で研究したフランスのCRAPELの自律型外国語学習は学習者の自律の１つの有り様を示しています。
- この自律型外国語学習のそれまでのフランスでの外国語教育における位置付けとその変遷を研究しています。

M2　関　Delphine　笑子

# 外国語教育にできること

18

- 私の研究テーマは、日本の大学で行われるフランス語教育のカリキュラムや教科書の内容についてです。
- フランス及び欧州で行われている外国語教育には、それを通して「多様性」「他文化への寛容」等を身に付けるという目標があります。日本での外国語教育には何が取り入れられているか、そうでない点は何故かを明らかにします
- もちろん欧州の制度をそのまま日本に適用することはできませんが、今日我々が外国語を学ぶ意味を改めて考えるきっかけになればと思います

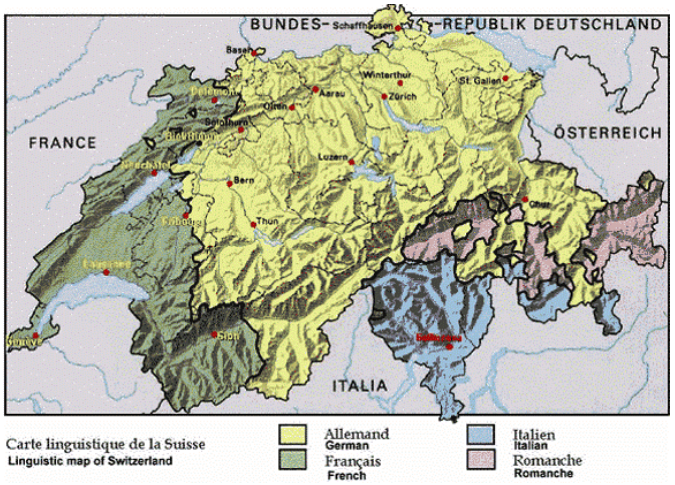
修士1年　引田 美沙

# 多言語社会スイスの言語政策

19

- フランス語・ドイツ語・イタリア語・ロマンシュ語の４つを国語とし、人口の4分の1が外国籍を持つ多言語国家・スイスの言語政策に興味を持ち、社会言語学の勉強を始めました。
- スイスでは、自分の「母語」と両親の言語、居住地域の「共通語」、学校で習う「外国語」は必ずしも一致しません。
- 日本人の両親、日本の学校、日本語の授業という環境で育った私から見た「言語」の輪郭はスイス人のそれと異なるでしょう。スイス人に限らず、私たちの隣に座っている友人の捉える言語観とそれに基づく世界の見え方も違うのではないかと考えています。

修士課程1年　藤井　碧（FUJII AO)



# 中国における少数民族に対する言語政策・教育について

20

- 修士一年　馬云霏
- 中国は漢民族と55の少数民族から構成される多民族国家です。しかし、少数民族は全国人口の 8.4%だけを占めています。
- この僅かな人口を占めている少数民族に対する言語の教育はどうのような形で行われたのは、またどうのような政策が出されたのかについて探求したいだと思います。
- また、少数民族の言語と漢語の双語教育が現在の民族教育の大きな課題と言われます。圧倒的な力を持つ「普通話」に対して、危機言語として他の少数言語の現状と対策について把握する必要があるだと思います。

# 「共生言語としての日本語」

- 日本内で住む日本語非母語話者が増えるにつれ、「やさしい日本語」での情報提供など、彼らが日本で安心して暮らせるための努力も増えつつあります。

- また、このように多言語社会となりつつある日本において、日本語非母語話者を社会の新しいコミュニケーション主体として迎え、非母語話者と母語話者が共に生きることを前提とし、お互いのより円滑なコミュニケーションを図るためには「共生言語としての日本語」が必要であるという意識も生まれました。

- 私は、この「共生言語としての日本語」の一方の運用主体である日本語非母語話者の観点から、彼らは母語話者にどのような日本語を求めているのか、また、非母語話者に必要な「共生言語としての日本語」はどのようなものなのかについて、研究して行きたいと思います。

研究生　金　ダソム

# 留学を通した
# 異文化間能力を考える

22

- 「留学を通じた異文化間能力の変化とその背景」が研究テーマです。
- 周りの中国からの友達は、日本に来てから積極的に異文化コミュニケーションに参加する人もいるが、逆に留学しても交流したくないまま一人で生活する人もいる。
- 異文化環境で文化的なショックを受ける時の個人の適応力と文化の受容を、CEFRの理論的背景から分析し、実際に縦断的調査をやって観察、研究したいです。

研究生　張　心悦